

■提案概要及び評価概要

提案名	国籍や障害の有無を問わず人が集い、学び合うことで多様な生き方を育む拠点づくり事業
実施場所	兵庫県神戸市中央区
代表提案者	株式会社 36
共同提案者	認定 NPO 法人まなびと
事業テーマ ※下線部は最も重視するテーマ	①課題設定型 — 1) 子育て世帯向け住環境の整備 2) <u>多様な世帯の互助を促進する地域交流拠点の整備</u>
事業内容	住宅整備（建設／改修） <u>施設整備</u> （ <u>建設</u> ／改修） <u>技術検証</u> <u>情報提供・普及</u>
提案概要	<p>外国人居住地である対象地域においては、近年は子育て世帯等の流入が増加するが、繁華街に近く、観光地でもあるため、地域住民、特に子どもたちが集う場が少ないことが課題となっている。</p> <p>本提案は、地域内の拠点として、学童保育、放課後等デイサービスを実施する場、障害者の就労支援の場を兼ねる交流サロンを新たに建設し、障害の有無や多様な年齢の子どもたちの居場所を整備するとともに、高齢者や外国人留学生も立ち寄り、参加できる仕組みを構築する。</p> <p>また、社会情勢の変化に応じて、変化する地域課題への対応、持続的発展的なケアを実践するためのスキルの向上を目指し、取組みの成果を検証し、地域の課題解決の方法論を広く周知することを目指す。</p>
評価概要	<p>対象地域のように地価が高い場所で、多様な人々が集える小さな交流拠点を整備することは、地域に対するインパクトが期待できる。また提案者は、長年、地域に根差して子どもを対象とした様々な活動を行っていることから、実効性の高い提案と評価できる。さらに学童保育と放課後等デイサービスの連携や外国人留学生をサポートするとともに、交流拠点での活動の担い手として活用する点等、新たな交流活動のあり方が期待できる。</p> <p>今後、類似性が高い地域での当該事業モデルの普及を目指すため、事業運営の工夫の分析や技術の検証を行い、事業継続性を確保する方法の整理・検証が重要である。検証成果をわかりやすく情報提供する方法の工夫も併せて期待したい。</p>
条件	—

提案名	団地を地域に開く：産学連携による厚木市緑ヶ丘団地「オープンストリート」等の整備				
実施場所	神奈川県厚木市				
代表提案者	神奈川県住宅供給公社				
共同提案者	東京工芸大学、一般社団法人かながわ土地建物保全協会				
事業テーマ ※下線部は最も重視するテーマ	①課題設定型 — 1) 子育て世帯向け住環境の整備 2) 多様な世帯の互助を促進する地域交流拠点の整備 3) 効果的に入居者を見守る住環境の整備 4) 長く健康に暮らせる高齢者住環境の整備 6) <u>住宅団地の再生につながる地域の居住継続機能の整備</u>				
事業内容	<table border="0"> <tr> <td><u>住宅整備</u> (建設/<u>改修</u>)</td> <td><u>施設整備</u> (建設/<u>改修</u>)</td> </tr> <tr> <td><u>技術検証</u></td> <td><u>情報提供・普及</u></td> </tr> </table>	<u>住宅整備</u> (建設/ <u>改修</u>)	<u>施設整備</u> (建設/ <u>改修</u>)	<u>技術検証</u>	<u>情報提供・普及</u>
<u>住宅整備</u> (建設/ <u>改修</u>)	<u>施設整備</u> (建設/ <u>改修</u>)				
<u>技術検証</u>	<u>情報提供・普及</u>				
提案概要	<p>代表提案者が昭和 30 年代に建設した集合住宅団地である緑ヶ丘団地では、一部住棟の戸建住宅への再編に伴う若年子育て世帯の流入があるものの、旧来の団地住民の高齢化や世帯の小規模化が進行し、コミュニティ活動の弱体化が課題となっている。</p> <p>本提案は、団地の集会所や屋外共用部を新しい発想でリノベーションし、団地内外から人が集まりやすいハード整備を行うとともに、担い手依存するだけでない持続可能な仕組みの構築を試みるものである。あわせて、過去に実施した学生デザインコンペのアイデアを活用しながら空き住戸の改修を行い、学生向けの賃貸住宅を整備する。</p>				
評価概要	<p>大学と連携して高経年団地をリノベーションする取り組みは全国的に広がりを見せており、先導性は必ずしも高くなりつつあるものの、道路と建物の中間領域を含めて豊かな環境に改め、地域の居場所となるような整備によって、団地集会所に人を引き込む魅力的な提案で、様々なアイデアにも富んでおり、意義ある提案内容である。従来の集会所という概念を打破する試みとして興味深く、類似事例への波及効果が期待できる。</p> <p>持続的なコミュニティづくりのためには、学生を受け入れる既存住民への配慮も必要である。自治会との交流を促進するなど、入居者を増やすだけでなく、学生が地域に溶け込めるような工夫を期待する。</p>				
条件	—				

提案名	佐伯祐三のアートで繋ぐ地域と共生する障がい者の職と住まい
実施場所	大阪府大阪市北区
代表提案者	社会福祉法人 光徳寺善隣館
共同提案者	—
事業テーマ ※下線部は 最も重視 するテーマ	①課題設定型 — 2) <u>多様な世帯の互助を促進する地域交流拠点の整備</u> ②事業者提案型 障がい者の住まいの確保とアートを軸にした地域住民との 共生、災害時避難拠点を創出
事業内容	住宅整備（建設／改修） <u>施設整備</u> （ <u>建設</u> ／改修） <u>技術検証</u> <u>情報提供・普及</u>
提案概要	<p>対象地域は、木賃住宅が多いが、近年は集合住宅が建設され、人口の増加が顕著な地域である。また、地域に位置する昭和30年代に建設された障害児居住施設は老朽化が進み、建て替えが必要な時期を迎えている。</p> <p>本提案は、当該施設の運営者が著名な画家佐伯祐三の兄が設立した団体であることから、障害児居住施設の建て替えに併せて、建物の1階をアートで繋ぐ交流・学びのスペース、プロムナード、交流広場として整備するものである。また対象地域は、淀川に近接し「家屋倒壊等氾濫想定区域」に指定されているため、建物の屋上に、高潮等非常事態が発生した際に地域の人々が避難できるような防災拠点機能を担う場を整備する。</p> <p>交流・学びのスペースにおいては、地域の人々と障害者が垣根なく、交流できる場をつくるために、整備段階から地域の人々が検討に参加できる仕組みを盛り込んでいる。また、整備後は、子供たちの作品展示やマルシェ等を定期的を開催するとともに、佐伯祐三の業績を伝えるボード展示等を行うことで、アートを通じて、施設と地域の交流を促進させる。</p>
評価概要	<p>地域で長く福祉事業を展開してきた代表提案者が、障害児居住施設の建て替えに併せて、施設の一部を地域の居場所として開き、また災害時の地域避難拠点として活用することは非常に高く評価でき、且つ実効性も高い。</p> <p>また、著名な画家の作品（アート）を通じた、地域との交流に注目した提案は非常にユニークで興味深い。</p> <p>一方、地域ぐるみで障害のある方の文化芸術活動を推進するためには、当該施設だけでなく、地域の他の障害者施設や団体と連携して、発表の場づくりなどを進める必要がある。本取組みを通じて、地域への波及的な展開を期待したい。</p>
条件	技術検証、情報発信・普及の内容については、当該事業との関連性があるかどうか、交付事務局と協議し、補助対象内外を決めること。

提案名	文化住宅から、程良いご近所づきあいの『ひとり親支援型住宅』を生み出す
実施場所	兵庫県神戸市垂水区
代表提案者	株式会社ジェクトワン
共同提案者	—
事業テーマ ※下線部は 最も重視 するテーマ	①課題設定型 — 1) <u>子育て世帯向け住環境の整備</u> 6) <u>住宅団地の再生につながる地域の居住継続機能の整備</u>
事業内容	住宅整備（建設／改修） <u>技術検証</u> 施設整備（建設／改修） <u>情報提供・普及</u>
提案概要	<p>賃貸住宅に居住するひとり親世帯においては、居住空間の利便性の悪さに関する悩みや、騒音が迷惑にならないかなど近所の目を意識した悩みが多く聞かれ、ひとり親世帯にとって過ごしやすい住宅が求められている。</p> <p>本提案は、アパートやマンションとは異なる独特の距離感をもつ文化住宅を改修してひとり親支援型住宅を整備し、「近い境遇の世帯同士が、丁度良い距離のご近所づきあい」を実現できる空間づくりを目指すものである。建物1階には入居者だけでなく地域に住む子どもたちも利用できるコミュニティスペースを設け、子どもの生活の不安軽減の効果を検証する。</p>
評価概要	<p>まちの不動産業者の現実的な対応として評価でき、近畿地方に今も多く残る文化住宅を活用する点は興味深い提案である。</p> <p>代表提案者が空き家活用の実績を有している点は実施体制としても評価できるが、事業実施にあたっては、区役所の福祉課と連携する必要がある。事業対象地域には女性支援を行うNPOが集積しており、関連する居住支援協議会も多くあるため、それらとの連携についても検討されたい。</p> <p>また、コミュニティスペースを地域に開いたものにするにあたっては、トイレなど共用設備のあり方について、より詳細に検討されたい。</p>
条件	—

